KYOTO KIMONO YUZEN HOLDINGS

決算補足説明資料

2027年3月期　第2四半期

株式会社京都きもの友禅ホールディングス

2026年 11月 9日

目次

1. 2027年3月期　第2四半期業績概要

2. 2027年3月期　通期見通し

3. 今後の成長戦略

4. 会社概要

2027年3月期
第2四半期業績概要

2027年3月期　第2四半期業績概要
①第2四半期決算サマリー

KYOTO KIMONO YUZEN HOLDINGS

・粗利率の改善が進み、第2四半期も営業黒字を確保

出荷時期のずれ等の影響により、売上高は減少したものの、これまでの改革の取り組みが着実に成果を上げており、引き続き、第1、第2四半期の各四半期で営業黒字を達成。

・集客施策の改善効果が定着、振袖事業が好調に推移

継続して取り組んでいる集客施策の見直しが奏功し、振袖受注は前年を上回って推移。
受注の早期化も進んでおり、下期以降の売上計上に繋がる見込み。

・収益性および財務健全性の改善

適正な販売・商品管理の見直しにより、売上総利益率は前年同期比で改善。
また、短期借入金を長期借入へ借り換え。財務基盤の安定化を図る。

2027年3月期　第2四半期業績概要
②第2四半期決算の概況

KYOTO KIMONO YUZEN HOLDINGS

売上高	前年同期実績（増減率）
2,756百万円	3,032百万円（△9.1%）

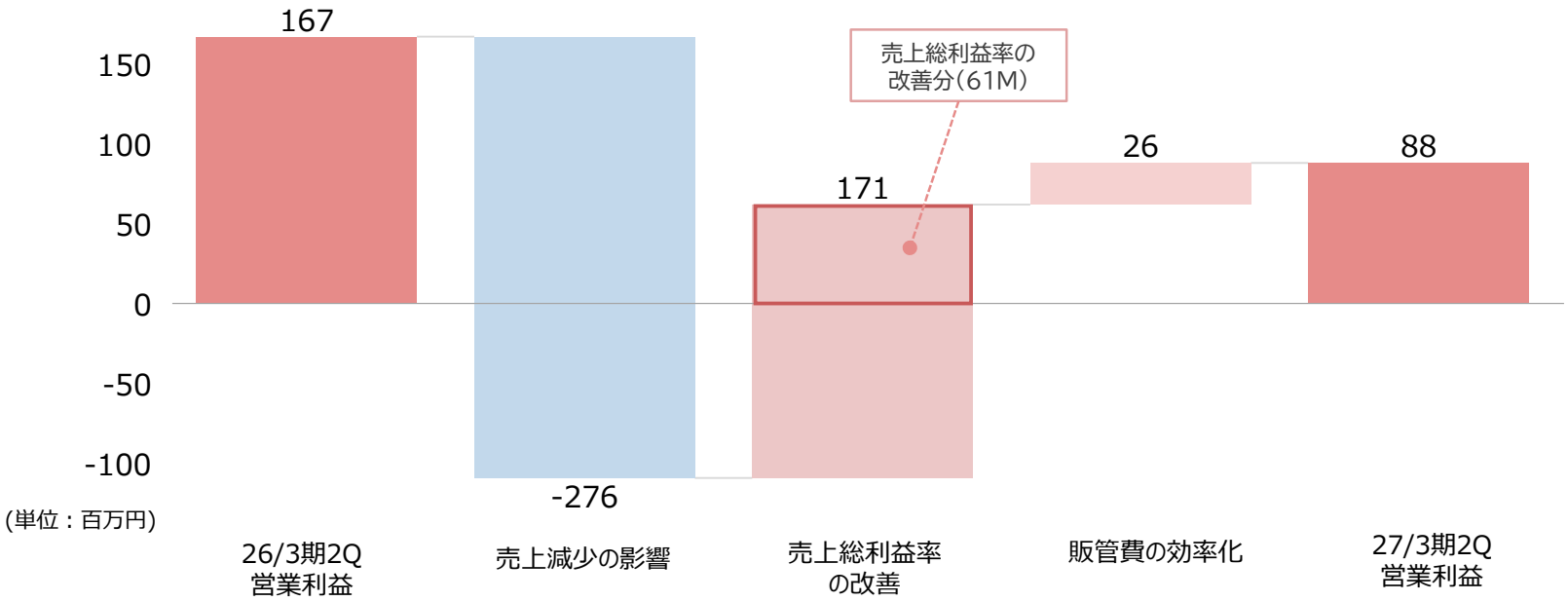
振袖	集客施策の改善が定着し来店者数が増加。前期の受注増加基調が継続し、前年同期比＋9.1%と受注高が拡大。
二尺袖・袴	前期との受注開始時期の違いもあり、受注高は前年同期を上回って推移。
一般呉服・宝飾等	顧客との接点強化や収益性管理の徹底に取り組む。催事スケジュール等の変更により、受注高は前年同期比△9.6%となったものの、計画通りに推移。
写真スタジオ	振袖受注の増加に伴い、成人式前撮り需要の取り込みが好調に推移。売上高は前年同期比＋40.3%と大幅増。
オンラインストア	自社サイトにおいて振袖関連小物を中心に好調を維持。売上高は前年同期比＋4.1%と引き続き伸長。

営業利益	前年同期実績（増減額）
88百万円	167百万円（△79百万円）

売上総利益率	仕入価格の変動に応じて適正な販売価格の設定や商品見直しを行った結果、売上総利益率は前年同期比で2.2pt改善。
広告・販促費	売上高の減少に伴い、広告販促費の対売上高比は前年同期比で＋0.9ptとなったものの、前期に引き続き、催事経費の見直しや費用対効果を重視した広告施策の運用を継続しており、費用対効果の向上に取り組んでいる。
その他販管費	前期において実施した店舗網の見直しにより、人件費、その他店舗固定費の適正化が進展。 一方、人材への投資や組織改革費用など今後の成長のための先行投資費用が生じ、売上高減少の影響もあり販管費比率は＋4.5pt。

2027年3月期　第2四半期業績概要
③営業利益の増減分析

- 出荷時期のずれ、振袖早期受注分の出荷時期が売上高に影響したものの、売上総利益率の改善（＋2.2pt）とコスト構造改革により営業黒字を確保。



2027年3月期　第2四半期業績概要
④損益計算書（連結）

KYOTO KIMONO YUZEN HOLDINGS

	2026年3月期 第2四半期		2027年3月期 第2四半期		対前年同期	
（単位：百万円、%）	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	3,032	100.0	2,756	100.0	△276	△9.1
売上総利益	1,827	60.3	1,722	62.5	△105	△5.8
販管費	1,660	54.7	1,633	59.3	△26	△1.6
営業利益	167	5.5	88	3.2	△79	△47.3
経常利益	164	5.4	92	3.4	△71	△43.5
中間純利益	150	5.0	81	3.0	△68	△45.6

2027年3月期　第2四半期業績概要
⑤受注状況（振袖・一般呉服等）

- 振袖　　・・・集客施策の改善効果は着実に定着しており、振袖来店者数は前期に引き続き好調に推移。受注の早期化により、今後の売上高への寄与が見込まれ下期以降の売上計上につながる。
- 一般呉服等・・・既存顧客との接点強化や休眠顧客の復活施策等を推進。催事スケジュール、内容変更の影響により受注高は前年同期比で減少したものの、概ね計画通りで進捗。

	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	対前年同期　増減率
受注高（振袖）	788百万円	860百万円	＋9.1%
受注高（一般呉服等）	2,066百万円	1,868百万円	△9.6%

2027年3月期　第2四半期業績概要
⑥貸借対照表（連結）

KYOTO KIMONO YUZEN HOLDINGS

（単位：百万円）

	2026年3月末	2026年9月末	対前期末　増減額
流動資産 **（うち現金及び預金）**	5,968 （3,013）	5,909 （3,138）	△59 （+124）
有形固定資産	210	179	△31
無形固定資産	1	2	+0.7
投資その他の資産	1,978	1,991	+12
固定資産	2,191	2,172	△18
資産合計	8,160	8,082	△77
負債	5,061	4,921	△140
株主資本	3,094	3,148	+54
純資産	3,098	3,160	+62
負債純資産合計	8,160	8,082	△77

【資産】
・商品及び製品　△58M
・売掛金　△108M
・建物　△35M
・投資有価証券　+12M

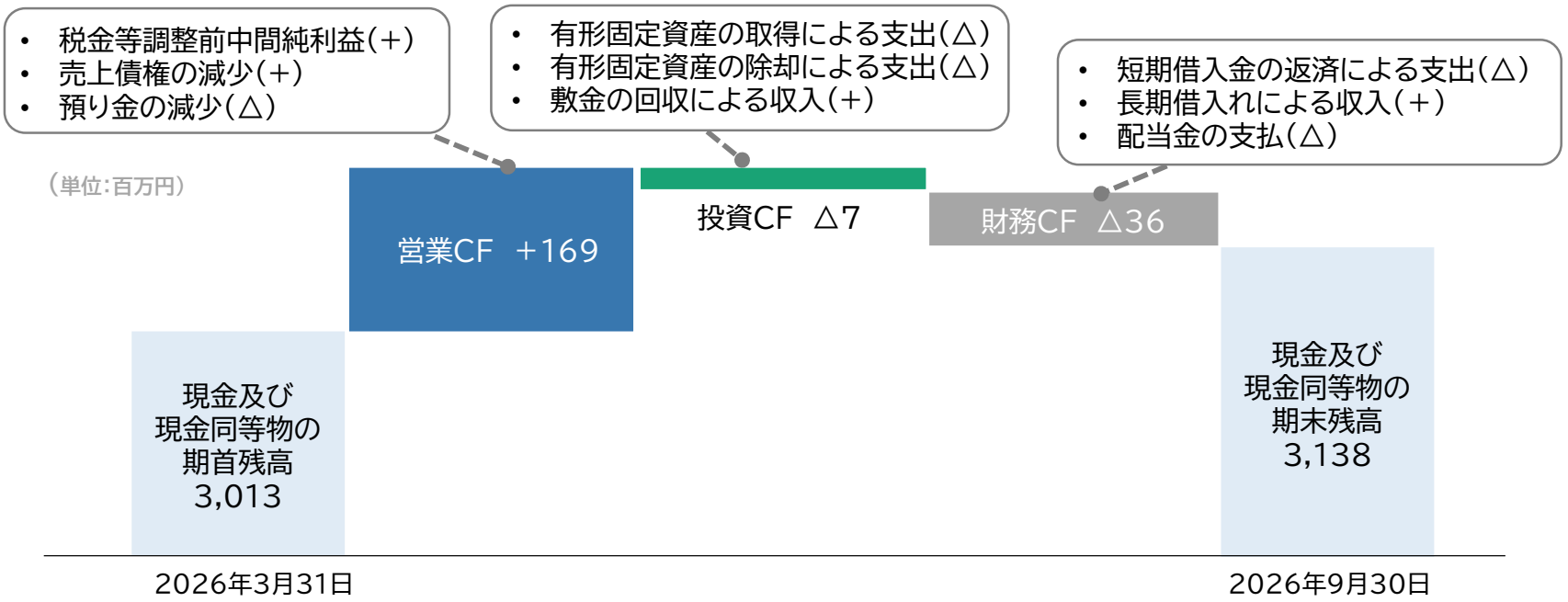
【負債】
・前受金　+194M
・短期借入金　△250M
・長期借入金　+185M
・契約負債　+72M
・預り金　△126M

【純資産】
・資本金　△542M
・資本剰余金　+542M
・利益剰余金　+25M
・自己株式　+29M

※自己資本比率　39.1%
（2026年3月末37.9 %）

2027年3月期　第2四半期業績概要
⑦連結CF計算書

・営業CFは＋169百万円の収入。前年同期（＋604百万円）を下回るも、プラスを維持。
・配当金の支払があった一方、借入を短期から長期へ借換え。現金及び現金同等物は＋124百万円。



2027年3月期
通期見通し

2027年3月期　通期見通し
①通期計画-損益計算書（連結）

（単位：百万円、%）	2026年3月期 通期 実績		2027年3月期 通期 計画		対前期	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
受注高	5,759	–	5,982	–	+223	+3.9
売上高	5,951	100.0	6,070	100.0	+119	+2.0
売上総利益	3,657	61.5	3,765	62.0	+108	+3.0
販管費	3,398	57.1	3,607	59.4	+209	+6.2
営業利益	259	4.4	158	2.6	△101	△38.9
当期純利益	221	3.7	104	1.7	△117	△52.9

2027年3月期　通期見通し
②株主還元

- 当社グループは、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としています。
- 2026年3月期において業績及び財務状況の改善が進んだことから、1株につき1円50銭の期末配当を実施いたしました。
- 2027年3月期においても営業黒字を見込んでおり、今後の事業展開のための資金需要等を勘案し、1株当たり1円50銭の期末配当を計画しております。

＜直近3期間の推移（連結ベース）＞

	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期（予想）
1株当たり年間配当金	0円00銭	1円50銭	1円50銭
配当性向	―	11.2%	29.8%

2027年3月期　通期見通し
③その他トピックス（1）

KYOTO KIMONO YUZEN HOLDINGS

第三者割当による新株予約権（行使価額修正条項付）の取得および消却

- 2025年8月、M&Aの実施に向けた自己資本の確保と、既存事業推進・改革資金の確保を目的として、新株予約権の発行を決議。2026年3月末までに8億9千万円の資金調達が完了。
- 手元資金の確保と財務基盤の強化が進んだことから、2026年3月に行使停止指定。第6回新株予約権については、2026年4月20日にすべてを取得、消却が完了。
- 今後の資金需要、財務バランス、希薄化の影響等を総合的に勘案し、残る第5回新株予約権（31,477個）についても、2026年12月11日に取得、消却する方針であることを決議。

新株予約権の概要（2026年9月末時点）

	第5回新株予約権 ※行使停止中	第6回新株予約権 ※2026年4月消却済み
行使期間	2025年9月1日～2028年8月29日	–
発行総数	98,000個	39,000個
新株予約権の行使総数	66,523個（発行総数の67.9%）	0個
資金調達額	890百万円	–

2027年3月期　通期見通し
③その他トピックス（2）

KYOTO KIMONO YUZEN HOLDINGS

新規借入による財務基盤の安定化

- 2026年9月までに短期借入金を全額返済し、2億5千万円の長期借入へ借り換えました。
- 財務健全性が高まり、自己資本比率は39.1%（前期末37.9%）、現金及び預金は3,138百万円となりました。
- 財務基盤が安定したことで、成長に向けた投資を、着実に進めてまいります。

令和8年熊本地震における被災地支援

- 令和8年熊本地震で被災されたお客様に、当社として何かできないかと考え、次の支援を実施しています。

✓　お手入れ・お直し費用の補助

✓　お着物の無料診断・ご相談の受付

- きものを通じて、お客様の「記憶に、そして心に」残る時間を支えることが、当社のMissionです。被災されたお客様にも、お一人おひとりに寄り添って今後も対応してまいります。

今後の成長戦略

今後の成長戦略
①当社のMission

KYOTO KIMONO YUZEN HOLDINGS

Mission

当社は、Missionを事業運営・接客の判断軸であるとともに、会社としての存在意義を示す原点として位置づけています。きものを通じて培ってきた伝統と文化を大切にしながら、すべてのステークホルダーの皆様と共に、記憶と心に残る価値を育み、持続的な企業価値向上に向けて歩んでまいります。

「記憶に、そして心に。」

私たちは、きものを通じて受け継がれてきた伝統と文化を守り、
記憶に、そして心に、残る想いを紡ぎます。

多様な事業とサービスを通じて、お客様に新しい価値と感動を届けます。

お客様、従業員、産地の職人をはじめとするすべてのステークホルダーと共に、
だれもが自分らしく輝ける未来を育みます。

今後の成長戦略
②成長フェーズへの移行

- 2026年3月期は、構造改革及び事業運営の見直しを進めた結果、通期営業黒字を達成し、収益改善に成果を上げることができました。
- 2027年3月期は、売上高は維持する一方、組織改革による体制強化、人材育成による生産性向上、広告販促による集客力強化、システム刷新による業務効率化への先行投資により営業利益は減少する見込みです。今後も、将来の成長に向けた先行投資を織り込みながらも営業黒字を維持し、Missionを軸に、再現可能な収益基盤として定着させ、持続的な成長モデルへの移行を進めてまいります。

（単位：百万円、%）	2025年3月期 実績		2026年3月期 実績		2027年3月期 計画	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
売上高	5,161	△26.5%	5,951	15.3%	**6,070**	2.0%
営業利益	△734	–	259	–	**158**	△38.9%

再生フェーズ	実行フェーズ	成長フェーズ
構造改革及び販売改革に着手し、収益構造の見直しを推進。	改革施策の実行を進め、収益改善に向けた取り組みを具体化。	黒字化を一過性の成果にとどめず、再現性ある収益基盤として定着させ、持続的な成長モデルへの移行を進める。

会社概要

会社概要

会社名	株式会社京都きもの友禅ホールディングス
本社	東京都中央区日本橋大伝馬町14-1 住友生命日本橋大伝馬町ビル
設立	1971年8月5日
代表者	浅香　竜也
上場市場	東京証券取引所　スタンダード市場（証券コード 7615）
従業員	373名（2026年3月末現在　※連結子会社を含めた従業員数）
連結子会社	京都きもの友禅株式会社、株式会社京都きもの友禅友の会
事業内容	振袖を中心とした呉服・宝飾等の販売・レンタル、写真スタジオ運営





会社概要 – 事業の概要

■ 京都きもの友禅グループでは、Mission「記憶に、そして心に。」のもと、成人を迎えるお客様への振袖の販売・レンタルを起点に、成人式写真の前撮りや卒業式の袴レンタルなど、人生の節目に寄り添う幅広い商品・サービスを提供しています。

■ また、積立制度「京都きもの友禅友の会」を通じてお客様との継続的な関係を築き、一般呉服や宝飾品等の販売も含め、長期にわたりお客様のニーズにもお応えしています。

振袖を起点とした独自の販売戦略



新規顧客
（成人対象者）

対象商品

振袖販売・レンタル

成人式前撮り・後撮り

卒業式袴レンタル

積立制度（友の会）



既存顧客

対象商品

一般呉服・宝飾等



お問い合わせ先
経営管理部
URL：https://www.kyotokimonoyuzenholdings.co.jp/
E-mail：kky_ir@kkyuzen.jp

注意事項
本資料に記載されている将来の見通しに関する記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。
これらの見通しは様々なリスク及び不確実性を含んでおり、実際の業績は異なる結果となる可能性がございます。